

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	持続可能な農業生産・消費における都市と農村をつなぐ流通システムに関する研究
Title(English)	
著者(和文)	渡邊春菜
Author(English)	Haruna Watanabe
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12785号, 授与年月日:2024年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:真田 純子,斎尾 直子,坂村 圭,真野 洋介,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12785号, Conferred date:2024/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	渡邊春菜	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	真田純子	教授	那須聖	准教授
	審査員	斎尾直子	教授		
		坂村圭	准教授		
真野洋介		准教授			

### 論文審査の要旨（2000字程度）

本論文は「持続可能な農業生産・消費における都市と農村をつなぐ流通システムに関する研究」と題し、8章で構成されている。

序章では、日本の効率化を志向する農業政策や大量生産、大量消費を支える流通システムが、農村の疲弊、過疎化を生んできたことから、健全な農村環境のためには流通システムに注目する必要があることを述べている。そのうえで、大量生産・流通システムに対抗する存在として登場したオルタナティブ流通システムとその概要を説明し、そのなかでも都市と農村をつなぐことのできる広域オルタナティブ流通システムを取り上げ、そのあり方、それを可能とする社会に求められることを明らかにすることが、本論文の目的であることを述べている。

第1章「関連研究における位置づけと捉え方」では、国内オルタナティブ流通システムの全体像を把握するための事例収集・分析方法を欧米の関連研究から検討している。事例収集にあたっては、流通形態がオルタナティブであるかだけでなく、運営主体の動機が重要であること、実態分析には経済的視点を加える必要があることを述べている。

第2章「持続可能な農業推進の観点から見た国内事例の実態と全体像」では、国内事例を収集し、経済的実態と、類型ごとの主体間関係分析を行なっている。広域オルタナティブ流通システムは、国内の14類型のうち、仲介主体が運営する個人向け宅配などのサービス、またはオンラインプラットフォームに分類され、前者のタイプは、価値共有がされやすく、環境や風景に資する農業を取り込める可能性があることを明らかにし、そのうえで、それらのタイプのほとんどが株式会社であることから、オルタナティブな動機・理念を保てるか、仲介者がいかに農産物の価値を決め、生産者、消費者と共有できるかが課題になると考察している。

第3章「事業継続・拡大のための考え方とシステムの対応」では、広域オルタナティブ流通システムの形態を持つ3事例を取り上げ、それらを事業規模と環境や風景に資する農業の観点から比較分析し、環境負荷低減や新規就農者支援等を事業として行うことの難しさを明らかにしている。その結果をもとに、消費者の歩み寄りが必要で、そのためには限定的な消費者を対象とした学びの場の提供に限らず、食料供給を通じた主体間の相互理解、消費者の行動変容を促していくことの重要性を考察している。

第4章「理念に基づくシステムの具現化」では、環境に負荷をかけない農法でつくられた農産物

を新規就農者から仕入れ、さらには消費者の行動変容を含めて流通の仕組みづくりを目指している「株式会社坂ノ途中」を対象にし、創業者が事業を進めていくなかで「100年先も続く農業を」という理念を形成したこと、その理念を、支えたい生産者像を考慮した取扱基準や仕入れ方法、選べない不便さを楽しみに変える野菜セットの設計、非効率な仕入れ・販売を効率化させるITシステム開発・運用として具現化していることを明らかにしている。

第5章「生産者と農業の特徴」では、「坂ノ途中」の流通システムが効果を発揮しているのかを確認するため、取引先である生産者の特徴と取り組みの特徴を、環境や風景に資する農業の観点から調査、分析している。生産者は平均45歳と若く、8割が新規就農者であること、多くが家族経営規模の農業を目指し、未来志向で自律につながる取り組みを地域で行っていることなど、「新しい小農層」とも言える人たちであることを明らかにし、「坂ノ途中」の理念や流通の仕組みが、地域の自立に貢献する生産者を支えていることを示している。

第6章「消費者の特徴と意識・消費行動」では、「坂ノ途中」が消費者と価値共有を行なっているのか、消費者の意識や行動を変容出来ているのかを明らかにするため、「坂ノ途中」からの情報発信と消費者の行動の変化を分析している。その結果、「坂ノ途中」は生産者を支える「野菜セット」という仕組みを「季節を楽しむ」という消費スタイルに翻訳して発信し、受け取った消費者は、その情報や野菜セットの消費という実践を通して環境意識や行動を変化させていることを明らかにしている。

第7章「総括と結論」では、これまでの検討を総括したうえで、流通事業者が食料供給という本業のあり方を通じて消費者の行動変容を促すこと、生産者、消費者の相互作用によって互いの歩み寄りを促すことで流通事業者が経済的にも持続可能となり、農村の環境や風景に資する農業に貢献できることを述べている。

以上を要約するに本論文は、農村と都市との良好な関係をつくる流通の仕組みを明らかにすることを通じて、現状の農村の過疎化、環境や風景の悪化を阻止し、環境的、経済的に豊かな農村を生み出す新たな体系の可能性を見出したものであり、その成果は、今後の農村計画、都市計画および国土計画において、工学上、寄与するところが大きく、博士（工学）の学位論文として十分な価値を有するものと認める。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。